

高い演奏力米国で注目

芦屋出身のチェンバロ奏者 濱田あや



6、7年前からトライアスロンに挑戦しているという濱田あや。「演奏会で心拍数が上がっても平気になった」＝神戸市内

芦屋市出身のチェンバロ奏者 濱田あやは、米国で注目を集める演奏家の一人。名門ジュリアード音楽院修士課程に昨年創設された古楽演奏科で、特待生として研さんを積む傍ら、演奏活動も展開。18世紀までの西洋音楽の魅力を知ってもらいたい」と今後は日本でレクチャーコンサートを開く予定で、11月には神戸市内で音色を響かせる。

同科のチェンバロ奏者は濱田のみで、約100人の応募者の中から選ばれた。チェンバロのために書かれた現代曲を意欲的に演奏する一方、今年5月の西宮のリサイタルでは、バッハの「バルティータ」などを披露した。

ルネサンス期、バロック期に使われたチェンバロは19世紀に一時すたれるが、20世紀に当時のチェンバロが復刻され、刺激を受けた音楽家が曲を作るようになった。チェンバロは弦をはじくシンプルな構造なので、感情や思いを乗せやすい。そんな音で空間を満たすが使命」ピアノを習っていた姉の姿を見て、3歳から教室に通い始め

11月、神戸 解説付きの演奏会

「当時の楽器があることに驚き、原点へさかのぼりたいという欲求がわいた」と振り返る。直後からチェンバロのレッスンを始め、同大学卒業後、ジュリアード音楽院修士課程でピアノを習った。

11月27日、日仏文化サロン(神戸市東灘区)で、自身の解説付きのコンサートを開催し、シリーズ化する予定。「フランスの宮廷音楽は流麗さが魅力で、バッハらドイツで生まれた楽曲は構築性に特徴がある。そんな違いや背景も深く掘り下げる」

午前11時と午後2時半開演で、午後の部は完売。4千円。実行委員会(野本さん) ☎090・8799・5408(藤嶋 亨)

ステージ

